真夏の扉

D.E.A.T.H.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真夏の扉

【Ｎコード】
Ｎ０９６９Ｄ

【作者名】
Ｄ．Ｅ．Ａ．Ｔ．Ｈ．

【あらすじ】
番長で一匹狼の佐上邪道が死んだ！そこから始まる死後の物語。

第一話　一匹狼

「ぐばっ…俺が負けた…だと～～～！！？」

ばったりと倒れる男。
この男はこの学園の番長だった男だ。

「チクショオオ！！一年坊ごときに負けるとは…カクッ」

そうしてその番長は倒れた。

倒したのは転入してきた一年の男らしい。
なんともありがちな展開だが。

「おめー、強いんだってな？」
「あぁ？誰だよ！？」
「おれぁー、テルっつーもんだ。よろしくな。」

金髪の男が、その番長を倒したツンツンヘアーの男に話しかける。

「“よろしく”だぁ？なんでお前と“よろしく”しなきゃなんねーんだよ！？」
「いいだろー！？どうせお前、仲間いないんだろ？」
「俺は仲間とかを持たない主義なんだッ」

ツンツンヘアーの男はそう言って何処かへ行ってしまった。

「なんだよ！？一匹狼気取りかァ！？ウゼェーー…」

ツンツンヘアーの彼の名は邪道（じゃどう）。佐上邪道（さがみじゃどう）だ。

テルの言うとおり“一匹狼”を気取る彼は学校をフけ、自宅へ帰ろうと下駄箱に寄った。

靴が無い。
手紙が置いてある。

「ったく…めんどくせー…」

そう言って、手紙を読む。
もちろん、現番長の邪道への挑戦状だ。

「“体育館裏”へ来い…だぁ…？ふりぃんだよ」
と呟きながらしぶしぶ体育館裏へ。

「待ってたぜ、ジャドーくん」
「靴はここだよ〜」
二人の男が靴と“鉄パイプ”を持ちながら立っていた。
邪道はため息を一旦つき、

「俺はさっさと帰りたいんだ。番長になりてぇなら肩書きはやるからよ。」
そう言って手を出す。

靴を返してもらおうとしているのだ。
「俺達はお前の肩書きなんてどーでもいいんだよ！」
「そうだ、お前が気に食わないんだ！」
そう言って男の一人は靴を地面に放り投げ、ツバをかけた。

「テメ…」
邪道はキレる。
拳を振り上げ殴りかかった。

鉄パイプなど、邪道の前では木の棒同然。
二人の男はボコボコにされ、ピカピカの“彼らの靴”で邪道は自宅へ帰った。

「…鍵忘れた…チッ…」

邪道は公園のベンチでダラーっと母親が帰ってくるのを待っていた。
邪道は学校ではあんな不良少年だが、母親には感謝を持って生きていた。

ウトウトしてきた。

そのまま邪道はベンチで眠ってしまった。

「復讐してやるよ…ジャドーくん…ヒッヒッヒ」
「おらああ！！！」

ゴンッ！！！！

バシッ！！！！

邪道が目を覚ました頃は時既に遅し。

「いてぇ！！！やめろっ！！！！」

「やめてやるか！！！おらおら！！！！」

ゴン！！

ゴン！！！！

バシッ！！

「…ふぅ…ってアレ？」

「どうした？」

「おおおお…おい、これって死んでるんじゃ…」

「えええええ…うわあああ！！！！逃げろおおおお！！！！」

邪道は死んだ。

第二話　あの世

「ここはドコだ？」

邪道は目を覚ますと、
赤い空
冷たく漆黒の地面
汚い空気
という悪環境の場所に立っていた。

邪道は思い返す。
そうだった。

自分は暴行を受けた、そして死んだのだ。

じゃあ何故、自分はここにいるのだろうか。

「これが…あの世って奴なのか？」

そう呟いた。

「ピンポーン♪」

「わっ！」

誰も居ないはずの目の前に現れた一人の美少女。
邪道と同年齢の様だった。

「誰だよ、お前!?ビビらせやがって」
「私は、ミーナ。あの世の案内人よ」
「案内人?マンガの読みすぎか?」
「いや、マジだから」

邪道はハッとする。
そういえば、幽☆○☆白書の浦○も、
ぼ○んっていう霊界の案内人に出会っていた。
そんな感じだろう、と勝手に納得する邪道。

「で、俺は生き返る試練を受けれるのか?」
邪道は聞くとミーナは吹き出す。
「プッ、それマジで言ってるの?そんなワケないっしょーー!」
ムッとする邪道。
ミーナは話を続ける。
「あたしはアナタを閻魔様のトコロにつれていくだけ。」
「そうなのか。」
少し残念そうに言う邪道。

なんだかんだで生き返りたかったのだろうか。

「じゃ、付いてきて。ここから１０キロくらい歩いたら闇魔城よ。」

「１０キロぉ！？たっるー…」

「はい、さっさと付いてきなさい！」

「へいへい」

辺りには何も無いはずなのに、妙な圧迫感があった。
悪い予感がする、そう思った邪道だが、
止むを無くミーナを信じるしかなかった。

第三話　闇魔城での争い

あれから何時間が経っただろうか。
未だ闇魔城とやらの先っぽすら見えていない。
「あ～、ダリィ…。ミーナ、ここで休憩しよーぜ」
「また休憩ですか？も～…」
座り込む邪道。ミーナも疲れを取ろうと座る。
辺りを見ると、今まで邪道とミーナ意外誰も居なかった、
この、“あの世”の大地にたくさんの人がいた。
「皆、死んだってことか」
「そうね。死んだ理由は色々あるけど」
二人一組になって歩く者がたくさん居る。
当然だが、案内人と死人のペアである。
「さぁ、行くか！」
「そうね。」

それから、歩くこと４時間。

「到着だあああああああ！！！！！」

「大げさね…」

大声を出して喜ぶ邪道と、飽きれるミーナ。

「ささ、早く闇魔様に会いに行きましょう」

城の中に入る二人。

城に入ってすぐ右に階段があり、そこから闇魔に会えるのだが、階段が無くなっていた。壊されたような傷跡も残っていた。

「あれま、どういうコト？」

「ちょ…これじゃあ闇魔とやらに会えねーじゃねぇか！！」

怒る邪道と、慌てるミーナ。

「くっくっくっく…」

「だ…誰！？」

妙な笑い声のする方に振り返ると、そこには悪魔のような男がいた。

いや、悪魔の“ような”…ではない。

悪魔そのものなのだ。

「俺は悪魔界Ａ小隊のジエー！キキッ！」

ジエーという悪魔は悪魔の巣窟、『悪魔界』から来たのだが、
その悪魔界というものは、４０００年前に滅びたはずだったのだ。

「なんで悪魔界の者が、この世界にいるのさ！？」

「キッキッキ…。知らないのか？悪魔王が復活したんだスよ」

「あ…悪魔王！？」

ミーナが驚きのけぞった。

「何ソレ？」

邪道が聞くと、ミーナは答えた。

「悪魔王ってのは、悪魔界で一番の権力者なのよ。４０００年前に
封印されたハズなんだけど…」

「封印しないで、殺せばよかったんじゃね？」

「悪魔界も、あの世も、死人の集まりなのよ。殺せるわけないじゃ
ない…」

「あ、そっか」

邪道の発想は却下される。

「アンタは何しに来たの！？」

ミーナが叫ぶ。ジエーは「キッキッキ」と笑いながら答えた。

「俺等は悪魔王様の命令で“あの世”をグチャグチャにして来いって言われたんだ

悪魔王様は閻魔の野郎に封印されたんだ！４０００年間も！そりゃ同情しちゃうよね。」

「と…いうことは！マズい！！」

ミーナは階段があった跡の上を見上げる。

閻魔が居るところを心配しているのだ。

「残念でスた！今頃、閻魔は悪魔王様にボコボコにされてるよ～」

「な……」

もう閻魔大王は助からないのか？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0969d/

真夏の扉

2010年10月30日23時56分発行